

ノージックによる知識の条件を用いて妄想を定義する

植野仙経 (Ueno Senkei)

京都府立洛南病院

妄想とはなにか。精神医学では、妄想とは偽であり・固く信じられ・不合理な推論に支えられた・訂正不能な信念であると定義されてきた。しかしこうした妄想の定義には多くの批判がなされてきた。たとえば、妄想は「偽の信念」(false belief)とされるが、「配偶者が浮気している」という妄想のように妄想の内容は真でもありうる。妄想とは「根拠のない信念」であると言い換えたり、妄想的信念は同じ社会的背景をもつ人々の多くには共有されていない等の条件を加えたりしても、迷信などの根拠のない信念や、少数派の人々がもつ宗教的信念あるいは新奇な科学的仮説との区別が問題となる。並外れた確信をもって主張されることや数多くの反証に直面しても訂正されないという特徴から、妄想は不合理な推論に基づく信念だとされるが、そのような不合理性は日常的な推論にもみられる。このように、従来の定義では、妄想とそれ以外の不合理な信念との区別は困難である。

仮に妄想がなにがしかの信念だとして、妄想とそれ以外の(不合理な)信念との違いをもう少し明らかににはできないだろうか。この問題意識から、本発表では妄想の定義を検討する。そこで手がかりにするのは、妄想をある種の知識としてみる視点と、外在主義的な認識論の一つであるロバート・ノージックのトラッキング説である。

精神医学者のマンフレート・シュピッツァーは妄想の再定義を試みるなかで、自分は「しかじかのことを信じている」(I believe that)と妄想をもつ患者が語ることはまれであり、むしろ自分は「しかじかのことを知っている」(I know that)と述べることに注目した。臨床家は患者の発言は妄想的な信念を述べたものであると判断するが、患者自身にとって、その発言は信念ではなく何らかの知識主張である。ただしそれは知識主張としては不当なものでもあるとシュピッツァーは論じる。この見解において、妄想は知識に似て非なるものとして、いわば疑似知識として位置づけられていると言えよう。

それでは、知識とは何か。古典的には、知識とは正当化された真なる信念(justified true belief)であるとされてきた。妄想的信念の多くにはまっとうな正当化がなされていない。したがって「妄想は正当化されていない信念である」と定義できるだろう。しかし知識として語られているけれども十分な正当化がなされていない信念は妄想以外にも日常的にみられる。古典的な知識の定義では、妄想とそれ以外のさまざまな疑似知識とを区別することはできない。一方、ノージックのトラッキング説は、知識の条件から正当化条件を外している。それゆえに、トラッキング説を用いれば、妄想を疑似知識として位置づけながら、

古典的な知識の定義を用いた場合の難点を回避することができるだろう。

ノージックによれば、知識の条件は以下の四つの条件である。

- (1) p が真である。p is true.
- (2) S は p ということを信じている。S believes that p.
- (3) 仮に p が真でないとしたならば、S は p であることを信じないであろう。if p weren't true, S wouldn't believe that p.
- (4) 仮に p が真であるとしたならば、S は p であることを信じるであろう。if p were true, S would believe that p.

妄想的信念 p の持ち主 S は p であることを固く信じている。すなわちノージックの知識の第二条件は、妄想においても必要条件の一つとなる。そして妄想の場合、p は偽であることが多いが、p がたまたま真であることもある。それゆえ、ノージックの知識の第一条件は、妄想の場合、真でも偽でもよい、ということになる。

妄想の古典的定義の一つは「訂正不能性」である。この定義の弱点は「訂正不能性」における「訂正」とはどのようなことなのか明らかにされていないことにある。妄想の「訂正」の試みとは、現実とは少しだけ異なる状況を設定して妄想を持つ人の信念の変更を企てる試みだと考えられる。そのような試みがことごとく失敗するとき、その信念は妄想的信念だと判断される。そこで、妄想の「訂正不能性」とは、S を観察する側がもつ「仮に S が現実とは少しだけ異なる状況におかれたとしても、S は p と信じ続けるだろう」という判断であると言えるだろう。このように理解された「訂正不能性」は、ノージックの知識の第三および第四条件の部分変更で表現することができる。

以上の考察をまとめると、妄想は次のように定義される。

ある信念 p が以下の条件をみたすとき、その信念 p は妄想的信念である。

- (1') p の真偽は問われない。p is true or false.
- (2') S は p と信じている。S believes that p.
- (3') 仮に p が真ではなくても、S は p と信じるであろう。if p weren't true, S would believe that p.
- (4') 仮に p が真であるならば、S はそれを信じるであろう。if p were true, S would believe that p.

以上が本発表の要旨である。発表時間に余裕があれば、この外在主義的な定義を用いて、妄想とそれ以外の（不合理な）信念との相違点について述べる。